

「サグラダ・ファミリアは130年以上違法建築だった!？」



2014年撮影

学生時代にバックパッカーとして見てきたサグラダ・ファミリア（聖家族贖罪教会）が随分完成したので再訪したくなり、2014年「そうだ バルセロナ、行こう」と民泊（サグラダ・ファミリアが見えるアパートメント）を予約して行って来た。同教会は日本からインターネットで予約でき、現地購入より安く、待ち時間なく入場できるので、個人で旅行する人にお薦めしたい。また、ガウディが設計したカサ・ミラ、カサ・バトリョ、グエル公園等も同様にネットでの事前予約ができる。

右の写真は1981年、着工後約100年目の状態で、その後の約30年間の工事スピードは、驚くべき速さである。当時完成していた東側の生誕のファサードは、数々の彫刻をはじめとして高密度なディテールで見る者を圧倒する。実は世界遺産はこの生誕のファサードと地下聖堂の部分だけということあまり知られていない。



1981年撮影

1882年に着工したサグラダ・ファミリアは、竣工まで300年以上かかると言われていたが、現在では2026年完成予定である（完成までのイメージ動画がYouTubeにアップされており良く出来ている）。工期が150年以上も短縮された理由は、観光客の増加による入場料収入の増加と、IT技術の進歩（3D Cadによる設計やCNC/数値制御加工機による石材加工・3Dプリンターの導入）である。

ただし、最近完成した部分は、手作りの生物的な曲面が薄れてきたことは残念である。また石造りではなく鉄筋コンクリートも採用されており、教会の寿命に与える影響がないのか、やや心配な点もある。

下の写真は2010年に完成した大聖堂内部で、外部は工事中でも神聖な祈りの空間が出来上がっている。最終的に中央に完成する高さ約170mのイエスの塔（現在の塔の高さの1.6倍）を支えるため、柱はかなり太く上方向に枝分かれしている。これは石材の柱に引張り応力が働かないよう、曲げモーメントを発生させない設計となっているからである。



「仮使用中」の聖堂内部



聖堂見上げ



東側側廊部

ところで、2018年10月、工事中の同教会は正式な建築許可を取っていなかったため、バルセロナ市に今後10年間で3600万€（約45億円）の解決金を支払い合法的な工事許可※を得たというニュースが流れた。設計者ガウディは、着工時に地元の町から建築許可を得ていたが、バルセロナ市との合併後、許可が更新されていなかったとのこと。入場者数450万人（2016年）から計算すれば、入場料（聖堂入場料17€～塔に上れば32€）のみで年間約100億円の収入になると思われるので、毎年4.5億円の負担はあまり心配ないのかもしれない。市はこの解決金を使って、地下鉄駅とのアクセス改善や周辺整備等を進めるらしい。（備考：入場料、為替レートは2019年1月時点）

当社が設計・工事監理を行なっている阪急電鉄京都線・千里線の淡路駅付近連続立体交差化事業は、都市計画事業認可がおりた1997年から竣工まで約30年かかる予定で、サグラダ・ファミリア程ではないが長期にわたる工事となる。当社のコンプライアンス宣言/行動指針に則って、法令・社会規範の遵守、安全確保に努めていきたいと思っている。

※2019年6月7日、460万€（約5億6400万円）を支払うことで建築許可はおりたとの報道あり。

上田 正人

阪急設計コンサルタント株式会社